

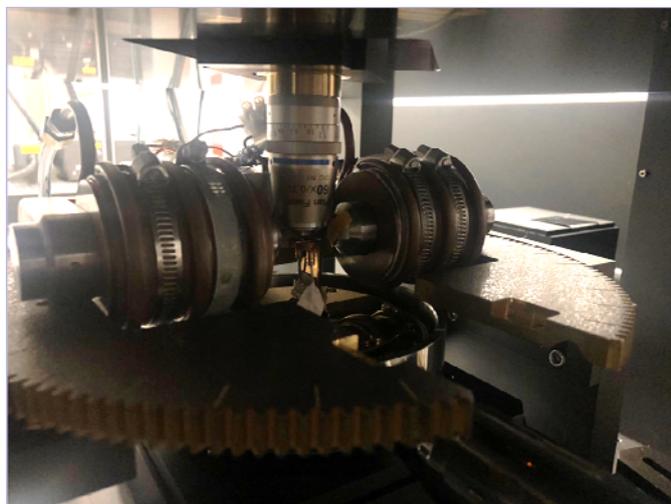
滞在報告

ナノスピントロニクス領域

D2 李 恬

今回、化学研究所我が手研究者国際短期派遣事業の援助を受けて、ドイツのミュンヘン工科大学に二ヶ月研究滞在させていただきました。滞在先は、時間分解磁気光学カー効果顕微鏡を用いたスピン波の研究で有名な Christian Back 教授の研究室です。

今回は、時間分解磁気光学カー効果顕微鏡を用いてスピン波の伝播性質を調査するために滞りました。滞在先はスピン波の専門家なので、まずサンプルのデザインから色々アドバイスをもらえました。今までなんとなく経験で決めていたアンテナのサイズなども計算できるソフトがあることを教えてくれました。今後の実験で参考にしたいと思います。時間分解磁気光学カー効果顕微鏡のセットアップに携わることもできました。今後もし自分たちで光学系装置を立ち上げる機会があれば、滞在先で得られた経験はきっと役に立つでしょう。



実験で使用した時間分解磁気光学カー効果顕微鏡

研究室の生活についてですが、ドイツの研究室は Coffee break の文化がありました。毎日お昼ごはんはみんなで食堂に行き、帰ってきたらコーヒー飲みながらおしゃべりします。その後にテーブルサッカーをする人もいます。そして午後三時ごろになったらまた Coffee break の時間があります。そのおかげで研究室みんなで話し合いやディスカッションをする機会が非常に多くて、オフィスが違ってなかなか会えないことはないのも、いい文化だと思いました。

ドイツの研究室で過ごす最後の夜は、ピザパーティーをしてくれました。研究室のキッチンにオーブンがあったので、材料だけ買って、自分達でピザを焼きました。新鮮な体験でしたし、ピザはすごく美味しかったです。

このような貴重な体験をさせていただいたことを深く感謝申し上げます。



ピザパーティーの様子